

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし24時間ケアサービスステーション
所在地	(〒 940 - 0098) 新潟県長岡市信濃 2-6-18		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24時間365日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2016年 8 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(27) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2016 年 12 月 7 日	出席人数(合計)	(18) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (4人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (2人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2人) <input type="checkbox"/> 利用者 (2人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (0人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (6人) <input type="checkbox"/> その他 (1人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の理念を職員皆が理解できているので、毎月の研修の中で専門技術の向上、レベルアップにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も理念の研修を行った。一般職員にどんな内容で研修をするか、企画を立ててもらい実行してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的に技術向上できるように研修内容を工夫している。看護との勉強会も行われている。さらに医療面の知識の向上を図っていくことが必要。 	
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人やご家族から、誰でも相談や要望に対応できる知識の習得や、気兼ねなく要望等が言えるような気配りや接遇力を身につけていく。 ・病院、訪問看護との連携にタブレットを活用し情報共有につなげていくと共に、ミーティングや学習会等、共同で行う機会を作り、サービスの理解も深めてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対応力を身に着けるよう接遇研修を行った。 ・全訪問看護事業所もタブレットを持つようになり、タブでの情報共有が出来る利用者も増え、看護とより深い連携ができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談等に対応できるよう一定の知識技術は習得できていると思われるが、対応不足の場合もある。その時はフォローが必要。 ・アセスメントの方法はそれぞれ違うかもしれないが、このサービスの大事なポイントなので、共有する方法を検討し、突合せが必要。
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医、訪問看護等、連携にタブレットを有効活用していく。 ・地域内の資源を掘り出し、特に生活支援の部分での活用方法を提案していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットを活用し、他職種連携が取れるようヘルパーから多く同意書を取った。 ・生活支援の中で不足している部分はないか、利用者・ご家族からアンケートを取り、要望を聞いた。 ・又その要望から説明会や研修会を開き、ケアマネ・ご利用者・ご家族から参加頂き、情報交換の場を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携先看護（定期随時の利用者）でなくてもタブレットの中で連携できるようになり、情報共有できる利用者が多くなり、多職種との連携の範囲が広がった。 ・生活支援サービスについて、利用者アンケートをとり、必要なニーズの把握に努めている。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議委員の募集も含め、委員の方々と計画を立て、一般の方にも分かりやすいような広報活動をする。 また、町内会、民生委員、お茶の間等の地域の集まりの場での説明会を小規模単位で計画する。 ・回覧板等での情報発信や、ヘルパー研修などで学びを共有することにより、気軽に情報交換できる関係づくりを目指す。 ・高齢者センターを利用し、広報活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議委員を募集し、前年度よりメンバーが多くなった。 ・昨年より多く広報活動行った。 ・コミュニティーセンター ・川西地区 ・ハイブ長岡 ・高齢者センター 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の方が増えたことにより、より多くの意見を頂く事ができた。 ・積極的に広報活動に努めている。 ・広報活動も何回か行う事で分かりやすくなった。 ・これから介護をする人側への理解を深める事が大事。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいのある在宅生活が送れるように、本人とより良い目標を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の援助、目標をより具体的にし、職員の声かけで自然と目標に向かって自立できるように援助した。 例えば、米研ぎや洗濯たたみを自分で出来るよう声かけする。・歩行介助にて食堂まで歩いて行ける等 	<ul style="list-style-type: none"> ・状態に合わせて対応しているので、適切に対応できる事業所だと思う。 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般職員が計画された研修に参加するだけでなく、計画立案にも参加することで研修意欲を高めることができた。また、その職員が講師として伝達することにより、技術知識を習得、再認識する機会となった。 ・推進会議の内容を一般職員に伝わってない。細かいところまで伝達していく必要がある。 ・医療面の研修を行っているが、個々の利用者ごとの医療知識を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の希望や目標に合わせ、外部研修に参加してもらい、その内容をきちんと職員全員に伝える事により、しっかり身に付けてもらう。 ・一般職員にも推進会議にかかわる機会をもってもらい、地域に必要なサービスであることを実感し、地域の一員として関わっていく。 ・看護や各サービス機関とのカンファレンスを通して個々の利用者ごとに必要な医療知識を習得していく。 ・職員の安全運転（車両事故対策）・安全管理（防犯対策）を見直す。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・知識技術の向上をめざしていくことが必要。 ・訪問看護とのタブレットの連携により、ご本人の状態の変化等細かいところまで把握できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度に関する知識を持てるよう、引き続き研修内容を充実させ、利用者や家族からの相談事に応じられるようにする。対応不足と感じた際には、上司がフォローし、その内容を各自が振り返り、次に生かせるようにしていく。 ・タブレットの共有の他にカンファレンス等の機会を増やして利用者把握に努めていく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで連携出来る事業所の範囲は広まったが、必要な情報が伝わるように、工夫が必要である。 ・生活支援についての研修を行ったが、ご利用者・ご家族の参加が少なかった。出席できなかった方へは書類にてお知らせしたが、多くの方から参加してもらえるように工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで素早く情報が伝わり、利用者へ適切な対応が出来るよう多機関・多職種と連携方法を検討していく。 ・引き続き、地域内のフォーマル・インフォーマルサービスについて情報発信していき、活用できることを提案していく。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動は対象者に合わせて方法を変え、色々な所で行い、好評だった。委員の方からも依頼を頂き、説明会を実施できた。 ・ 回覧板等での情報発信ができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、対象者に合わせた小規模単位での説明会を継続して行く。 ・ 地域に情報発信できるよう広報誌など、回覧板を利用して行う。 ・ 市内の社会資源を地域の方に紹介する機会を企画していく。(有料ボランティア・シルバー人材・タクシー等) ・ 推進会議の皆様と共に「まちづくり」を考え、事業所としてできること、また、センター全体で出来る事をサポートしていく。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅生活が継続出来るような目標を立てているが、やはり施設へ行かれてしまう方がいる。何が不足で入所になったのか。という振り返りをしっかりと行ない、次に繋げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメントをしっかりと行い課題を見つけ、多職種や地域の方・インフォーマルサービスを取り入れながら、本人の望む在宅生活の継続を図る。 <p>又、家族やご本人にも、課題に対して具体的に対応を提案し、在宅生活が継続できることをケアマネや、在宅医と共に伝えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者、家族が安心して在宅で暮らせるように、サービスに対する満足度調査を行い、不安や不足部分を見極めていく。(アンケートの評価方法を遠慮なく記入してもらえる様に工夫する) 	

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します